
三歳差ですよ

黒焦げみかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三歳差ですよ

【Nコード】

N8299S

【作者名】

黒焦げみかん

【あらすじ】

大人っぽい高校生、桐生直人はある人を好きになってしまった。その人は年上で三歳差の彼女のお姉さんだった…

始まり

好きな人がいた。

今までの女の子中で一番君が好きな自信があった。

その事を君は分かってくれていた。それが嬉しかった

桐生直人はこれから3年通い続ける高校の制服に袖を通していた。黒髪で眉にかかるほどの前髪。スラツとした脚で身長は178?。母の遺伝で脚長で茶色の瞳。

「また身長伸びたな…」と直人は鏡に映った自分を見て呟いた。

制服を着終わり、直人は机の上に飾られてる写真を見た後、部屋を後にした。

写真には直人と綺麗な女の子が、1人笑顔で写っていた。

直人が通う、三木高等専門学校は都会から外れた少し田舎にあるが、都会から通う生徒も多く、直人もその1人だ。

直人が学校に着いた頃にはクラス発表がされており、直人の学科である、建築科の生徒全員の名前が出ていた。「全員知らね…」と直人は呟いた。そもそもこの高校には、直人と同じ中学の子はいない。

直人は中学の時から中学生とは思えない雰囲気があり、同級生と比べても明らかに直人は、おとなしく大人っぽかった。よく高校生に間違われたし、私服の時は大学生に間違われた事もあった。部活の後輩からは、「桐生先輩は氷みたいで、かっこいいっすね」と言われた事もあり、少し傷ついたことを覚えている。「高校でもキャラ変わらないのかな…」と直人は心の中で呟いた。

入学式、クラスでの集まりが終わり、一年生は下校していく。帰りの駅で直人はいきなり出された建築科の課題、「あなたが考える優

しい住宅」について色々と頭の中で構図を練っていた。「無理だわ…こんな」構図を練るのを諦めて、携帯を見た。【受信メール一件】という文字が浮かび上がっていた。

相手は大抵分かるすぐにメールを返信した。

「向こうはもう終わったのか…」と直人が呟く。メールが返ってくる。

「今から会える？」と相手から

「りょーかい」と返信

「今からか…」と直人は心で呟く。

メールの相手は、直人の彼女の愛呼^{あこ}からで、付き合ってから5ヶ月ぐらいで中学の同級生だ。

約束の場所に着き、愛呼を探した。

「見つけた…」と直人

ベンチに座っている、黒髪でロングヘアで脚が長く大人らしさを出した、愛呼を見つけた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8299s/>

三歳差ですよ

2011年4月30日14時26分発行